

TT[®] の進化

製品の始まり

トレーディング・テクノロジーズ (TT) は電子先物取引の最先端として 1994年に設立され、取引執行の先駆的な存在となりました。弊社は革新に重点を置き、金融業界の長年の経験者とエンジニアの混合チームを構成し、X_TRADER[®] をプロフェッショナル先物トレーダーのための主要なツールセットを開発しました。X_TRADER は、クライアントサーバーアーキテクチャーを使用して設計されており、最初は業務用の展開としてのみ利用が可能でした。主な顧客は、個人トレーダーや自己勘定取引企業に配信を行う FCM でした。X_TRADER は、フロアトレーダーの需要を満たすことのできた、高速で信頼性のあるツールでした。

金融業務が多様化し、同時に X_TRADER も進化を遂げました。グローバル銀行、ブローカーヘッジファンド、その他のバイサイドの顧客は、それぞれ多様な要望を抱えていました。弊社は特定の業務要件とワークフローに合わせて X_TRADER の機能を強化しましたが、元々に作られた構造では、拡大する顧客の基盤において、広範囲な需要に対応することが困難でした。多くの機能強化は、アーキテクチャーの大規模なシステム更新が必要となったので、組織の中で

配備することがますます困難になってきました。

顧客から環境のホスティングの要望を受けることがありました。これをきっかけに、世界中の取引所に接続されたデータセンターのグローバルネットワーク、TTNET[™] を形成することになりました。TTNET[™] は、特にグローバル銀行からは非常に評判となったサービスでした。しかし製品の既存の構造のため、弊社はそれぞれの顧客に別の環境を作成する必要がありました。それは拡大が困難で、配信とサポートの面でも問題がありました。

さらに、X_TRADER は閉ざされたプラットフォームでした。API のお陰度である程度の柔軟性はありましたが、プラットフォームのバックエンドは、限られた取引所の数しかアクセスを提供できませんでした。企業はより柔軟性を必要としていて、フロント オフィス、ミドル オフィス、バック オフィスのすべての間でシステムを統合させる必要がありました。旧式のアーキテクチャーでは限度があったので、変更を行う必要がありました。

現在と今後

X_TRADER の構造は、維持やサポート、配信、拡張が非常に困難になってきたので、新規の取引プラットフォームの作成に取り組み始めました。プラットフォームは TT と名付けられ、ゼロから設計されました。顧客の問題を解決して革新をとげることのできる能力には限度があったため、多くの困難な点に対応できるように、最新のテクノロジーを最大限に活用しました。

弊社は簡単に配信ができてアクセス可能な、しかも専門のトレーダーが要求する性能を確実に提供できるプラットフォームを作成しようとしていました。弊社のハイブリッドクラウド設計では、両方の特性を取り入れることができました。低遅延のインフラストラクチャーは、取引所のコロケーションデータセンターのグローバルネットワークにそのまま維持し、クラウドベースの配信インフラストラクチャーを活用して、拡張とアクセスが非常に容易となりました。

TT は SaaS 配信モデルを通じて展開されました。顧客はクライアントやサーバーの互換性の問題、さらに端末の仕様に関して心配する必要はありませんでした。ユーザーや口座、

接続を簡単に有効化できて、ユーザーはほぼ即時に接続して取引を開始することができます。

TT の新しいアーキテクチャーと配信モデルは、お客様の要望に対応できる解決策をすばやく簡単に確立できるように構成されています。以前よりもずっと短時間で新機能を市場に提供できる上、弊社の拡張可能なオープンアーキテクチャーでは、以前には不可能であった解決策を配信することができるようになりました。

さらに、この固有で同じネットワーク効果を活用して、オンデマンドのインフラストラクチャー サービスやデータソリューションなどの新規の機能を提供して、企業全体の複雑な問題を解決することができるようになりました。